患者向医薬品ガイド
２０２２年１２月更新

アグリリンカプセル０．５ｍｇ

【この薬は？】

販売名	アグリリンカプセル０．５ｍｇ AGRYLIN Capsules０．５ｍｇ
一般名	アナグレリド塩酸塩水和物 Anagrelide Hydrochloride Hydrate
含有量 （１カプセル中）	０．６１ｍｇ （アナグレリドとして０．５ｍｇ）

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

・この薬は、本態性血小板血症治療剤と呼ばれるグループに属する薬です。
・この薬は、血小板を産生する巨核球という細胞の形成と成熟を抑制することにより血小板数を低下させます。
・次の病気の人に処方されます。
本態性血小板血症
・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○患者さんまたは家族の方は、この薬の有効性や注意すべき点について十分理解できるまで説明を受けてください。説明に同意した場合に使用が開始されます。

○次の人は、この薬を使用することはできません。
- ・過去にアグリリンカプセルに含まれる成分で過敏症のあった人
- ・肝臓に重い障害のある人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。
- ・心臓に障害がある、または過去に心臓に障害があった人
- ・ＱＴ間隔の延長がある、または過去にＱＴ間隔の延長があった人
- ・腎臓に重い障害のある人
- ・肝臓に軽度および中等度の障害のある人
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

○心臓に障害があらわれることがあるので、この薬の使用前に心機能検査（心エコー、心電図など）が行われます。

○ＱＴ間隔延長や心室性不整脈があらわれることがあるので、この薬の使用前に心電図検査および電解質の測定が行われます。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量と回数は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。
通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

	開始量	最大量
１回量	０．５ｍｇ	２．５ｍｇ
使用回数	１日２回	１日４回

※あなたの症状により、増量または減量することがあります。
増量する場合は１週間以上の間隔をあけて１日あたり０．５ｍｇずつ増量します。
１日の用量として１０ｍｇを超えて飲むことはありません。

●どのように使用するか？

カプセルを開けたり、かみ砕いたりせずにコップ１杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●使用し忘れた場合の対応

決して２回分を一度に使用しないでください。
飲み忘れに気がついた場合は、気がついた時に、すぐに１回分を飲んでください。
ただし、次の飲む時間が近い場合は１回とばして、次の時間に１回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

・心臓に障害があらわれることがあるので、この薬を使用している間は定期的に心エコーや心電図などの心機能検査が行われます。
・ＱＴ間隔延長や心室性不整脈があらわれることがあるので、この薬を使用している間は定期的に心電図や電解質の測定が行われます。
・貧血、血小板減少、白血球減少、ヘモグロビン減少、リンパ球減少、好中球減少があらわれることがあるので、この薬を使用している間は定期的に血液検査（血球数算定など）が行われることがあります。
・この薬を使用している間は血小板数を確認するため定期的に血液検査が行われます。
・妊娠する可能性のある人は、この薬の投与中および投与終了後一定期間は適切な避妊法を用いて避妊してください。
・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
・授乳している人は医師に相談してください。
・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。
このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
心障害 しんしょうがい	動悸（どうき）、体がだるい、息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、しめ付けられるような胸の痛み、胸を強く押さえつけられた感じ、冷汗が出る、あごの痛み、左腕の痛み、胸の不快感、脈が速くなる、脈がとぶ、体重の増加、めまい、気を失う、血圧低下
ＱＴ間隔延長 キューティーかんかくえんちょう	めまい、動悸、気を失う
心室性不整脈 (Torsade de pointes を含む) しんしつせいふせいみゃく (トルサード ド ポワントをふくむ)	めまい、動悸、胸の不快感、気を失う
間質性肺疾患 かんしつせいはいしっかん	咳（せき）、息切れ、息苦しい、発熱

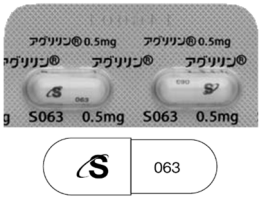
出血 しゅっけつ	出血、鼻血、歯ぐきの出血、あざができる、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）、視界の中に見づらい部分がある、視力の低下、目のかすみ、小さいゴミのようなものがみえる症状の悪化、あおあざができる、出血が止まりにくい、咳と一緒に血が出る、吐き気、嘔吐（おうと）、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、腹痛、突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然片側の手足が動かしにくくなる、突然の頭痛、突然の嘔吐、突然のめまい、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる
血栓塞栓症 けっせんそくせんしょう	吐き気、嘔吐、脱力、まひ、激しい頭痛、胸の痛み、押しつぶされるような胸の痛み、突然の息切れ、激しい腹痛、お腹が張る、足の激しい痛み、突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然片側の手足が動かしにくくなる、突然の頭痛、突然の嘔吐、突然のめまい、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる
貧血 ひんけつ	体がだるい、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸、息切れ
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい
白血球減少 はっけっきゅうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
ヘモグロビン減少 ヘモグロビンげんしょう	体がだるい、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸、息切れ
リンパ球減少 リンパきゅうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
好中球減少 こうちゅうきゅうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用の表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	体がだるい、疲れやすい、むくみ、冷汗が出る、体重の増加、発熱、出血、出血が止まりにくい、脱力、まひ、突然の高熱、寒気
頭部	めまい、気を失う、突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然の頭痛、突然のめまい、激しい頭痛、頭痛
顔面	あごの痛み、鼻血
眼	視界の中に見づらい部分がある、視力の低下、目のかすみ、小さいゴミのようなものがみえる症状の悪化
耳	耳鳴り
口や喉	咳、歯ぐきの出血、咳と一緒に血が出る、吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、突然の嘔吐、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる、喉の痛み

部位	自覚症状
胸部	動悸、息苦しい、息切れ、しめ付けられるような胸の痛み、胸を強く押さえつけられた感じ、胸の不快感、胸の痛み、押しつぶされるような胸の痛み、突然の息切れ
腹部	腹痛、激しい腹痛、お腹がはる
手・足	左腕の痛み、脈が速くなる、脈がとぶ、突然片側の手足が動かしにくくなる、足の激しい痛み
皮膚	あざができる、あおあざができる
便	便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）
その他	血圧低下

【この薬の形は？】

形状	 ４号硬カプセル剤
長径	１４．３ｍｍ
短径	５．３２ｍｍ
色	白色
識別コード	Ｓ０６３

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	アナグレリド塩酸塩水和物
添加剤	ポビドン、無水乳糖、乳糖水和物、結晶セルロース、クロスポビドン、ステアリン酸マグネシウム、ゼラチン、二酸化チタン

【その他】

●この薬の保管方法は？

・直射日光と湿気を避けて室温（１～３０℃）で保管してください。
・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

・絶対に他の人に渡してはいけません。
・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：武田薬品工業株式会社（https://www.takeda.com/jp/）
くすり相談室
フリーダイヤル　0120-566-587
受付時間　9：00～17：30（土日祝日・弊社休業日を除く）